

令和2年度第7回大学運営連絡会議事要旨

日時	令和2年11月17日(火) 10時35分～11時47分
場所	Web会議
出席者	学長、渡理事、山下理事、寺本理事、岩本副学長・全学教育機構長、山崎副学長・事務局長、佐々木監事、板橋教育学部長、吉住芸術地域デザイン学部長、樫澤経済学部長、末岡医学部長、豊田理工学部長、小林農学部長、山下附属病院長、大島附属図書館長、高椋総合分析実験センター長
欠席者	なし
陪席者	鯉川学長補佐、倉岡学長補佐、小野学長補佐、早瀬学長補佐、後藤学長補佐、三島学長補佐、只木学長補佐、上田学長補佐、田中学長補佐、西郡学長補佐、吉永学長補佐、伊藤地域学歴史文化研究センター長、池上海洋エネルギー研究センター長、郭シンクロトロン光応用研究センター長、矢田肥前セラミック研究センター長

○ 学長から、令和2年度第6回大学運営連絡会議事要旨の確認依頼があった。

【 報告・連絡事項 】

(1) 部局等の実行計画の進捗状況報告(1回目)について

渡理事より、各理事から提案があった年度計画の評価事項について、進捗状況判定を行った旨、説明があった。次いで、只木評価室長より、総括として、進捗状況報告のうち、検証の目的、内容、スケジュールが明確でないもの、9月時点で具体的な取組が実施されていない計画及び数値目標の達成が困難な計画等について、指摘があった。また、第3期中期目標・中期計画にかかる数値目標において、平成31年度末進捗状況のうち、課題が残るものについて、説明があった。

学長より、今回は各理事の評価が厳しめということについて、4年目終了時評価が行われたことも影響しているかもしれないが、取りかかりが遅いように感じている旨、来月には2回目の進捗状況報告が行われる予定であることから、2回目の進捗状況報告時には年度計画の多くが達成したとなるよう、取りかかってほしい旨の発言があった。

豊田理工学部長より、帰化した外国人研究者数の取扱いについて質問があり、研究協力課長より、詳細なデータを確認して後日回答する旨の発言があった。

吉住芸術地域デザイン学部長より、国際交流事業について、新型コロナウイルス感染症の影響から頓挫している事業が多くあり、年度内に目標達成することが困難なものへの対応について質問があり、寺本理事より、海外の提携校に英語による講義、各学部、学系の教員を対象とした

英語による講義のための講習会等を計画しており、主にWeb上において行うことができる国際交流事業を進めていきたい旨の回答があった。

(2) 「研究力の分析に資するデータ標準化の推進に関するガイドライン」2020年度対応について

寺本理事より、内閣府の「研究力の分析に資するデータ標準化の推進に関するガイドライン」に基づくデータ提供依頼に対応するため、各部署に対し、統一されていない論文ネームについては、正しいものを記載していただくよう依頼があり、また、教員活動データベースについても、同様の調査の基本となることから、正しい表記を記載してもらうよう依頼があった。

(3) 国立大学法人ガバナンス・コードについて

総務課長より、本件について、国立大学法人のガバナンスの在り方について、以前より検討が行われており、令和2年3月に国立大学法人ガバナンス・コードが策定及び公表された旨、経営協議会委員からの意見の反映を行わなければならないことから、11月9日に開催された令和2年度第2回経営協議会において、経営協議会委員に対し本件の説明を行った旨、ガバナンス・コードの目的、意義、本学における実施内容及び今後のスケジュールについて、説明があった。

(4) その他

特になし

【 各学部等からの報告・連絡事項 】

(1) 活動現況等について月例報告

西郡IR室長から、月例データの分析に基づく気づき事項について説明があり、次いで、各部署長から、前回の気づき事項への対応を含む月例報告があった。

(2) その他

特になし

【 その他 】

寺本理事より、本学における国際化の推進を目的とし、主に学外のゲストスピーカーを招聘して、第1回さがん国際フォーラムを開催する旨、説明があった。

以上